

## 最後のチャンス！ 今すぐ浅水管理で有効茎数を確保！

### ◎ 生育概況と技術対策

6月に入ってから低温少照で、「雪若丸」の6月17日現在の生育は、指標値に比べて草丈は短く、茎数は少なく、葉数は少なく、葉色は薄くなっています。特に内陸で茎数が不足しているほ場が多くなっています。

内陸平坦部「雪若丸」の生育（6月17日）

項目	調査値	指標値	指標比・差
草丈 (cm)	25.6	29.9	86 短い
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	301	394	76 少ない
葉数 (枚)	7.0	7.6	-0.6 少ない
葉色 (SPAD)	38.9	41.2	-2.3 薄い

庄内平坦部「雪若丸」の生育（6月17日）

項目	調査値	指標値	指標比・差
草丈 (cm)	25.3	31.6	80 短い
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	419	448	94 少ない
葉数 (枚)	7.4	8	-0.6 少ない
葉色 (SPAD)	43.4	43.1	0.3 やや薄い

### (1) 今こそ、浅水管理で分けつ促進！茎数確保！

2週間気温予報によると、今後は気温の高い日が続く見込みです。

この機を逃さず、日中止水、夜間かんがいを徹底し、水深2～3cmの浅水管理で分けつを促しましょう。

土壌の異常還元がみられた場合は、田干しや夜間落水を行い、根圏環境の改善を図りましょう。

6月20日の茎数が300本/m<sup>2</sup>以下、葉色40以下の場合は、窒素成分量1kg/10a程度を補完施用し、分けつを促進します。

### (2) しっかり有効茎数を確保したら直ちに作溝・中干し！

「雪若丸」は、6月中（8～9葉期まで）に有効茎数（560～580本/m<sup>2</sup>）を確保することが高品質・良食味米生産と適正籾数確保のポイントです。

有効茎数を確保したほ場では、直ちに作溝・中干しを行います。

### (3) 穂肥前の生育制御

幼穂形成期（出穂25日前）まで葉色を40未満に低下させないことが管理のポイントです。

6月30日の生育診断で穂肥をしっかり行える生育となるように、茎数や葉色をコントロールします。

6月30日の適正生育量

茎数	葉色 (SPAD)
560～750本/m <sup>2</sup>	40～44

**葉もちが本田で確認されています。ほ場の観察を行い、早期発見に努め、発生初期に防除しましょう！  
斑点米カメムシ類やや多い！畦畔の草刈りを徹底しましょう！**